

大宮双輪場のあり方に関する意見書概要

令和6年11月
埼玉県競輪事業検討委員会

検討委員会で取りまとめた意見

①存廃について

⇒現状の2場体制のメリットを最大限に
生かすことが望ましい

- ・埼玉県が全国の施行者の中でも唯一、2か所で開催しているメリットを最大限に生かすことで高い売上と収益が見込まれ、県財政への貢献が期待できる
- ・今後大規模修繕が必要と考えられる西武園競輪場だけでは県営競輪事業の継続に支障をきたすおそれがある
- ・廃止となるとプロ・アマ問わず練習拠点が喪失し自転車競技振興に大きな支障が見込まれる

②建替え場所について

⇒現在地での再整備が合理的
ただし、大宮SBP基本計画次第で
大宮第二公園も候補になり得る

- ・大宮スーパー・ボールパーク構想の一環として計画的かつ早期の再整備が期待できる
- ・大宮第一公園の賑わい創出や他の施設との融合が期待できる
- ・移転する場合には新たな土地取得費用がかかり、自転車競技振興への支障や周辺住民の理解を得るのに時間を要するなどの懸念がある

③建替施設の整備について

⇒以下の検討を要請

- ・様々な自転車競技の更なる普及・振興等に資する施設で、公園利用者や地域住民など広く県民に資する施設とすること
- ・周囲の公園施設との融合など施設の有効活用を検討すること
- ・適切な規模(コンパクト)で利用者が使いやすい施設とすること
- ・複数のスポーツが楽しめ、飲食店等による公園内の賑わい創出など多目的な機能を持たせること
- ・自然災害等への備えとして防災機能の付加を検討すること

【今後の再整備等に向けた提言】

- ・地域の理解を得ながら地域と共存し競輪事業を行っていくことが何よりも重要である。
- ・地域や民間事業者等の意見を幅広く聴取し、先進の再整備事例も参考にしながら大宮公園の魅力向上を図り、賑わいを創出して地域の活性化に貢献するなど、地域が誇れる施設とすることが必要である。また、民間活用の手法などを詳細に分析し最適な経費で最大の効果を発揮できるよう努めなければならない。
- ・再整備の完了までに、更なる収益の増加や地域と調和のとれた施設とするための取組が必要である。

<各検討委員の主な意見>

- ・現在地であれば、現在の施設からコンパクト化し公園内の他の施設と融合を図り、他のスポーツができる施設や文化教養施設、カフェ・レストランなどを持つ複合施設として付加価値のある施設とする必要があると考える。また、地震や水害など頻発する自然災害に対する防災機能を備えることも必要と考える。
- ・インターネットでの車券購入が増えているため、現状と同じような大規模な施設を再整備するのであれば現在地になくてもよいのではないかと。複合施設として競輪専用でない施設にするならば双輪場を残してもよいかもしれない。
- ・西武園競輪場は民間が所有しており、今後の経営について不確実な部分が多く、将来を考えると2場体制の継続を検討していくのがよい。大宮双輪場はスポーツ振興や子供たちの活動の場にもなっており、廃止するべきではない。
- ・大宮公園は非常に潜在能力が高いエリアなので、現状の双輪場よりも良い活用方法が考えられ、他の可能性を検討することも必要である。可能であれば、第二公園に移転し建替えることを検討すべきである。
- ・大宮スーパー・ボールパーク構想をより良いものとするために大宮双輪場のあり方が阻害要因となってしまうといけない。様々な可能性がある中で、大宮スーパー・ボールパーク構想の進捗に合わせて第二公園への移転も検討すべきではないか。
- ・歴史と伝統、自転車のメッカ、県内の自転車振興、優れた立地性という観点からも双輪場は現在地にあるべきである。
- ・大宮双輪場は他の県営公園や土地の安いどこか別の場所に移転して2場体制を継続することで、引き続き収益の確保や自転車競技振興に貢献でき、さらには現在地を双輪場以外の利用形態とすることで大宮公園の価値向上にも繋がると考える。